

# 神代中学校PTA

## 2023 年度PTA臨時総会

### 議案書

#### 第1号議案

#### 「コミュニティ・スクール導入に伴うPTAの抜本的な見直し」(案)

※当議案は、本部役員および専門委員、クラス委員、学校の意見を反映させ、第4回常任委員会を経て議案上程しています。

# コミュニティ・スクール導入に伴うPTAの抜本的な見直し

## 見直しの要点

「コミュニティ・スクール導入に伴うPTAの抜本的な見直し(案)」は、これまでPTAという組織のもとで行われてきた保護者と教員が協働するしくみを撤廃し、次年度から導入されるコミュニティ・スクールのもとで学校・保護者・地域が協働するしくみに切り替える案です。具体的には、スクール・サポート・コーディネーター(仮称)が装置(調整役)となり保護者のボランティアを募るしくみです。

**PTA 会則の全面的な撤廃**

- ★加入意思確認 → なし
- ★PTA 会員 → なし
- ★会費 → なし
- ★PTA 本部 → なし

PTA という組織のもとで保護者と教員が協働するしくみを抜本的に見直す。



**PTA に代わるしくみ**

「スクール・サポート・コーディネーター(仮称)」が装置(調整役)となり、保護者のボランティアを募る。

コミュニティ・スクールのもとで学校・保護者・地域が協働するしくみに変える。

## ポイント① エントリー制による自発的なボランティア募集には成果があった

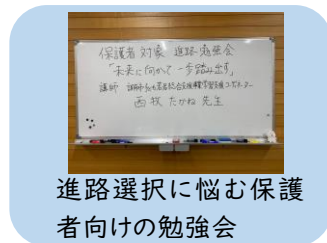
今年度から神代中学校PTAは、「for Our Children ともに考え、つくるPTA」を合言葉に、随時、ボランティアの募集とエントリーを行う体制に変わりました。アプリを活用した運営の効率化を図り、会員のみなさんと一緒に考えながら、無理なく自発的に参加できる神代中学校PTAをつくってきました。その結果、学校を取り巻く課題に対応する新たな取り組みを含め、多くのボランティアが自発的に参加してくださいました。



映画上映会



体育祭ボランティア



進路選択に悩む保護者向けの勉強会



広報紙の作成



上級学校説明会の支援



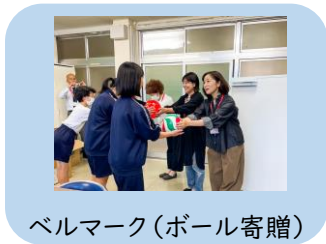
学年懇談会



合唱祭ボランティア



市P連体育行事参加



ベルマーク(ボール寄贈)



地域行事への模擬店参加



自転車通学マナー見守り



標準服リサイクル販売会

※2023年度の活動の一部を紹介

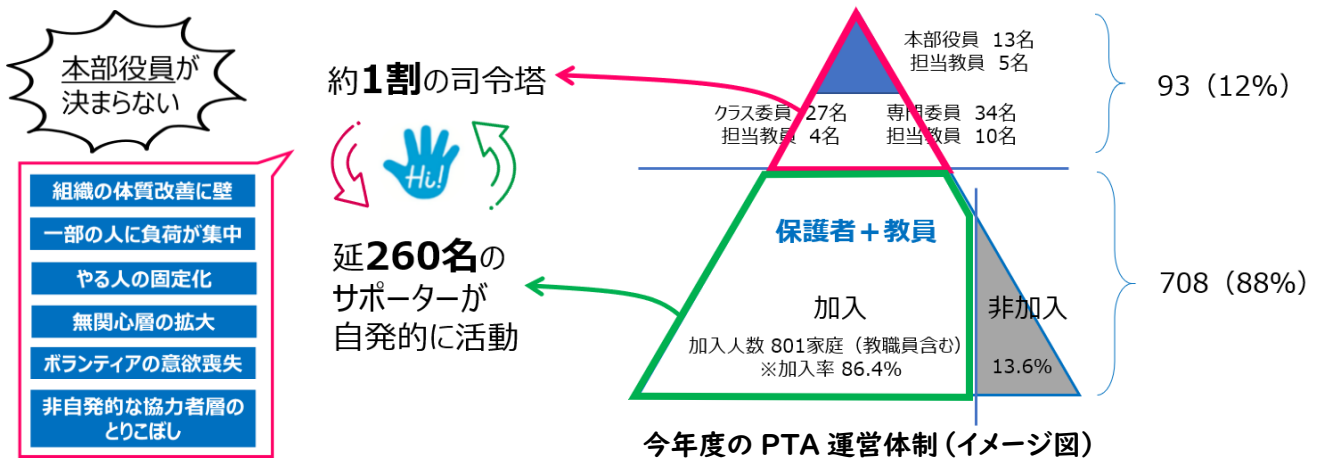
年間延べ 260 名のボランティアが活動!



## ポイント② 中心的な役割を担う役員・委員に大きな負荷が生じた

しかし、主体的に知恵を出し合い協働することは、そう簡単ではありません。家庭を取り巻く状況は様々ですし、学校側も働き方改革で業務の負荷軽減を図っています。「できることをできるときに無理のない範囲で」少しずつのチカラを出し合って協力してきましたが、実現にはいくつものハードルがありました。

1年間活動した結果、改革が旧態のPTAから抜け切れていない部分があり、中心的な役割を担う人の負荷が大きいという問題が浮き彫りになりました。スポットのボランティアであれば参加可能だという人が多い中、学校の実態を理解し、必要な活動をつくり、ボランティアを集めて活動するのはとても骨が折れる作業です。さらに、本部役員は、会議の運営、会費の管理、組織の維持(渉外)といった間接的な業務にも忙殺されます。結果として、次年度のPTA本部役員が決まっておらず、現状の組織を維持することができない状況です。役員選出委員会による度重なる募集が行われましたが、定員が満たされないまま今に至ります。

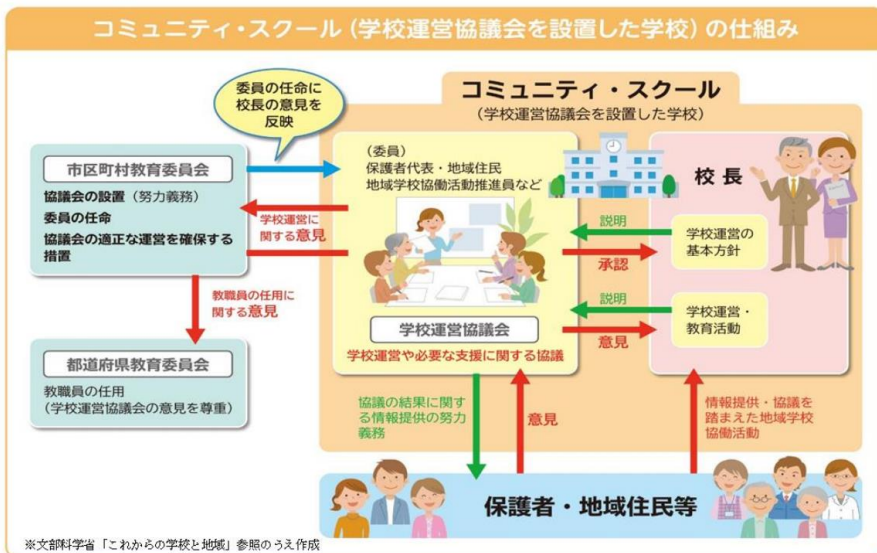


ボランティアの力を結集して活動することに対する成果は出ています。それを維持・促進するために、PTA組織は特段「必要がない」というのが本部の考えです。PTAがあると組織運営を行うための間接的な業務が残り、本来の目的にコミットできなくなってしまう弊害が生じています。検討した結果、PTA組織そのものを、抜本的に見直す案に到達しました。



## ポイント③ コミュニティ・スクールとは

調布市コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)とは、保護者や地域住民が責任をもって学校運営に参画する仕組みで、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5で定める学校運営協議会(合議制の機関)を設置した学校を指し、「地域とともにある学校づくり」を推進することを目的とした国の制度になります。調布市では、令和7年度までにすべての市立小・中学校全校で導入することを予定しています(神代中学校は令和6年度から)。



↑解説動画のリンク

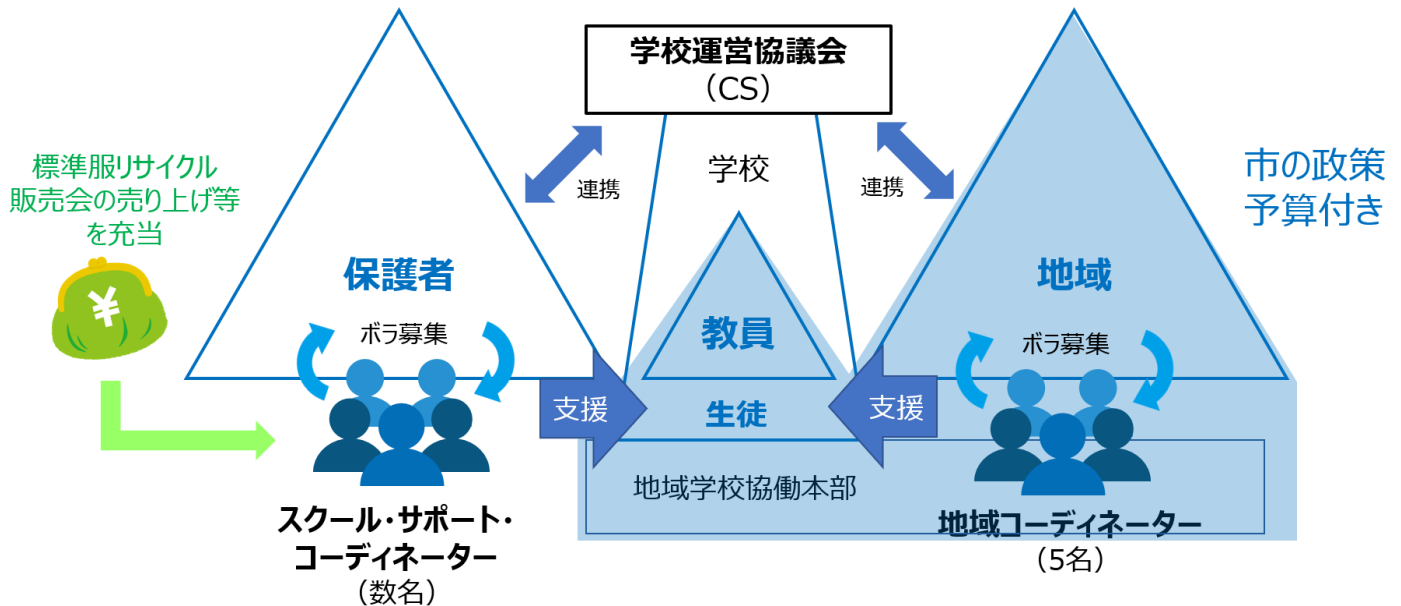
(15分20秒)



## ポイント④ コミュニティ・スクールの導入に伴うこれからの協働のしくみ

調布市では、全ての市立小・中学校に地域学校協働本部を設置し、地域人材を活用しながら教育活動の充実(学習・部活動支援等)を図ってきました(図の青い網掛け部分)。このコミュニティ・スクールのしくみの中で、学校・保護者・地域は協働をしていきます。

学校運営協議会で意見交換が行われ、それをもとに学校では教育活動が行われます。地域は、地域コーディネーターが地域住民からのボランティアを募って学校の支援を行います。保護者は、スクール・サポート・コーディネーター(仮称)が保護者からのボランティアを募って学校の支援を行います。コミュニティ・スクールの導入と地域協働本部の設立により、保護者の学校支援のあり方も変わりつつあります。教員と保護者のみがPTAという組織で一体になっている状態はむしろ不自然な状況です。PTAがなくてもコミュニティ・スクールのもとで協働することがこれからのしくみとなります。



コミュニティ・スクール導入後の協働のイメージ



## ポイント⑤ スクール・サポート・コーディネーター(仮称)とは

学校運営協議会(CS)であがった学校の要望に応じて、保護者の方々が、できることをできる範囲で学校の教育活動を支援していきます。スクール・サポート・コーディネーター(仮称)は、縁の下の力持ち的な立場で、保護者のコラボレーションを引き出します。興味や関心に応じた目的別のスモール・コミュニティが繋がり合う保護者の協働を目指し、コーディネーターは「つくる、支える、つなぐ」という役割を担います。

財源については、会費をとらなくなりますので、標準服リサイクル販売会の売り上げ等を充てながら活動する案が出ていますが、現在のPTAが保有する繰越金などを精算する業務も含めて、スクール・サポート・コーディネーターの皆さんで、1年間かけて、最もよい対応を検討していきたいと考えています。



- 何人にする?
- 活動部門別に分ける?
- どうやって選ぶ?
- 活動するための財源はどうする?
- 学年ごとに必要?

などは検討中

PTA 本部役員と比べて、はるかに気軽にできるものにして考えています。スクール・サポート・コーディネーター(仮称)に興味のある方や、一緒にこれからの保護者コラボレーションのあり方を考えてくれる方を募集しています。